



細川律夫国会事務所 TEL 03-3508-7513 FAX 03-3593-7148

細川律夫後援会本部 TEL 048-966-5115 FAX 048-965-8818

E-mail : g04091@shugji.n.go.jp ホームページ : <http://minshu.org/hosokawa/>

2005年3月25日 No.103

こんな予算で危機は乗り越えられない

3月23日、参議院本会議で平成17年度予算が可決成立しました。民主党は政府案に反対し、独自の案を作りましたが、多数与党の壁は破れませんでした。現在、累積長期債務残高は増え続ける一方、わが国も人口減少の時代に突入するという大変困難な状況にもかかわらず、政府は旧態依然の、各省庁の権益を残した予算編成を続けています。このままの自公政権では、年金の空洞化、財政危機といった状況を乗り切ることが不可能です。

県連定期大会開かれる

去る12日、さいたま市内で民主党埼玉県総支部連合会の第7回定期大会が開かれ、細川律夫代議士が代表を退任し、新しい代表に枝野幸男衆議院議員が選出されました。枝野代議士は就任の挨拶で「埼玉から政権交代の嵐を起こすため全力を尽くす」と語りました。



枝野幸男新代表と細川律夫代議士

細川代議士は代表としての最後の挨拶で、発足当時3名だった国会議員が、現在16名になるなど、民主党の躍進を振り返るとともに、組織や政策の面で様々な課題が山積していることを指摘しました。

代表を退いた細川代議士は、今まで空席だった「常任顧問」に選任され、今後も大所高所から県連を支えていくこととなりました。

決算委でセントレア視察

3月14日、私が委員長を務めている衆議院決算行政監視委員会で、中部国際空港(セントレア)の視察に行っていました。委員会の視察とは、国の政治がどう行われているか、予算が正しく使われているかを、現地に行って調査するものです。中部国際空港は、成田、関空に続く第3のハブ空港として建設されたもので、国会での法案審議のときから、いろいろな議論が交わされていました。従来の空港と異なり、民間の会社が運営する点、あるいは、本当に国際空港として採算が合うのか、言い換えれば無駄な公共事業になる可能性はないか、といった点です。このほど、愛知万博の開催に十分間に合う、2月17日開港になりましたが、現地で見たとこではなかなか好感が持てました。しかし、開港直後ですから良く見えるのは当然ですので、格下げになった名古屋空港の行く末や、セントレアの今後の利用状況等をしっかり見てい

かなければなりません。(細川律夫 HP より)



セントレアの滑走路を背に

少子化、財政危機で講演

16日、細川律夫代議士は越谷サンシティで地元の人々を前に「これからの日本はどうか」との講演を行いました。特に、人口減少・少子高齢化と財政危機の問題に絞って話をしました。

予想では、来年ピークを迎える人口も2100年には半減し、生産人口の不足、社会保障制度の破たんが心配されます。財政も来年度末で国と地方の累積債務が774兆円となり、GDP(国内総生産)の1.5倍を超え、危険水域に近づいています。細川代議士は、国の借金が民間金融を押し上げるクラウドファンディングアウト、国や自治体の債務不履行(デフォルト)、公債の日銀引き受けによる超インフレなどの可能性を指摘しつつ、政府が思い切った対策を取らなければ日本は衰退すると断言し、政治の責任を強調しました。

東埼玉の動き

年度末にかけて、県東部でいろいろな動きがあります。

一つは国の施設であるハローワークの新規開設に併せ、越谷市の産業雇用支援センターがオープンします。雇用の改善が進まないなか、自治体が雇用のミスマッチを積極的に解消しようとする試みは評価に値します。

もう一つは国体前の開通が延期されていた東埼

玉道路の一部区間(吉川市)と外環の側道である国道298号線の千葉県境まで(三郷市)が開通します。埼玉東部をめぐる道路ネットワークが次第に整備されるのは良いことですが、大気汚染や騒音といった環境の変化も常に監視しなければなりません。

一方、草加市立病院では3月中旬より産婦人科の分娩が一時休止という事態になっています。医師の総数は増えていますが、診療科によっては病院の勤務医の確保が難しい現状があり、小児科医の不足という問題も含め、医師の適正配置は国全体の課題です。昨今何でも市場原理の導入が流行ですが、特に医療や教育といった公共性の高いところは、市場原理だけでは解決のつかない課題が多いということ認識しなければなりません。(細川律夫 HP より)

元チェス王者の出国を助ける

元チェスの世界チャンピオンのボビー・フィッシャー氏が、米国のパスポート失効との理由で東京入管の施設に約8ヶ月収容されていました。細川律夫代議士は外国人ジャーナリストや弁護士からの要請を受け、法務当局から事情を聞くとともに、国際的に著名なプレイヤーを長く拘束することは決してわが国の利益にならないことを主張しました。そして、報道でもご覧になったように、24日、フィッシャー氏の市民権を認めたアイスランドに向けて出国することができたところです。

